

アクセスMap



◎ 地下鉄

都営大江戸線 ② 若松河田駅 下車(若松口より徒歩5分)

..... ③ 牛込柳町駅 下車(西口より徒歩8分)

都営新宿線 ④ 曙橋駅 下車(A2出口より徒歩12分)

◎ 都営バス

宿74系統 ① 新宿駅西口 → 東京女子医大前

宿75系統 ① 新宿駅西口 → 東京女子医大前 ← ⑧ 四谷駅前 ← 三宅坂

早81系統 早大正面 → ⑤ 馬場下町(早稲田駅) → 東京女子医大前 ← ⑥ 四谷三丁目 ←

千駄ヶ谷駅前 ← 原宿前 ← 渋谷駅東口

高71系統 ⑦ 高田馬場駅前 → 東京女子医大前 ← ⑨ 市ヶ谷駅 ← 九段下

病院構内Map



病院見学について

ご興味のある診療科や将来入局を希望される診療科の担当者にお問い合わせください。連絡先は、卒後臨床研修センターのホームページに掲載しています。病院見学の際、卒後臨床研修センターの施設見学も希望される場合は、別途、卒後臨床研修センターまでご連絡ください。

東京女子医科大学病院 卒後臨床研修センター

〒162-8666 東京都新宿区河田町8番1号(第1病棟3階)

Tel:03-3353-8112(内線20331、20332) Fax:03-5269-7825 e-mail:sotsuken.bm@twmu.ac.jp

<https://www.twmu.ac.jp/info-twmu/medical-t/>

2026年度

東京女子医科大学病院

Tokyo Women's Medical University Hospital

卒後臨床研修センター



<https://www.twmu.ac.jp/info-twmu/medical-t/>

臨床研修の理念と特徴

当院では、以下3点を目的にプログラムを作成しております。

- 医師法(昭和23年法律第201号)第16条の2第1項に規定する臨床研修
- 医師としての人格・全人的医療を行う態度の涵養
- 医学・医療の社会的ニーズであるプライマリケアの基本的な診療能力(知識・技能・態度)の修得

左記は、複数診療科のローテート、病棟および外来での研修を通じて修得できます。同時に、本学の専門性を活かした将来の志望臨床科を視野に入れ、一部は選択制を取り入れています。基本コース・小児科専門コース・産婦人科専門コース・外科専門コースの4つのプログラムを展開しています。

■ 病院長メッセージ

医師臨床研修制度は、医師の基本的な診療能力の習得のため、平成16年度に努力義務から必修化された制度です。「診療に従事しようとする医師は、二年以上、都道府県知事の指定する病院又は外国の病院で厚生労働大臣の指定するものにおいて、臨床研修を受けなければならない」という医師法の規定に基づいており、これを経ずに診療に従事することができません。研修を通じて、基本的な診療能力(態度、技能、知識)を身につけるのみでなく、「医師としての人格の涵養」や、「医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識する」ことが要請されています。東京女子医科大学病院では、安心と安全を最優先して、患者ファーストの多職種によるチーム医療を実践しています。難易度の高い症例では診療科の垣根を越えたハイリスク検討委員会が開催されています。大学病院という性質上複雑な症例が多いため、複数の診療科が連携して、議論しながら一人ひとりの患者の治療計画を立案していくという現場がここにあります。移植やダビンチ、ハイパースコットなど最先端の医療を実践しています。研修プログラムでは、経験豊富な指導者の下で多くの症例を経験することができます。「新生女子医科大学病院」の一員として新しい研修生活をお迎えになる研修医を歓迎いたします。

■ 卒後臨床研修センター長メッセージ

長く続く医師のキャリアにおいて、その第一歩となるのが初期臨床研修です。東京女子医科大学病院の初期臨床研修プログラムは、基本的に臨床医を志す初期研修医を対象としたもので、基本コースのほかに、小児科、産婦人科、外科、プライマリ・ケア、足立医療センターとの連携研修など、各専門コースが設定されています。東京女子医科大学は、臓器・疾患群別センター制の施設・組織構成(例えば心臓病センターや消化器病センターなど)を特色の一つとしていますので、臓器・疾患群別に内科と外科が融合した組織の中で、診断から治療まで一貫性のある知識とスキルを身に着けたハイレベルな専門医を育成する組織風土を有しています。そこで卒後臨床研修センターでは、基本コースで採用された研修医も含めて、希望する診療科での重点的な研修が可能になるよう柔軟に対応しています。そのため、志が高ければ高いほど、このような専門性の高い研修を受けやすい環境の中で、初期臨床研修期間中から特定の専門医を目指した研修を受けることができます。

新生東京女子医科大学病院は、東京新宿という日本のど真ん中でハイレベルな専門医を目指した、研修に没頭したい医師を広く募集しています。



病院長 西村勝治



卒後臨床研修センター長 本田五郎

■ 新生東京女子医科大学病院のミッション、ビジョン、バリュー

ミッション(Mission)～病院の使命～

社会から信頼される高度な医療を提供する大学病院として、人々の生命と健康を守ります。

ビジョン(Vision)～目指す病院像～

高水準の医療安全と最新の医療を追求し、患者さん一人ひとりに最善の医療を実践することを目指します。

バリュー(Value)～行動指針～

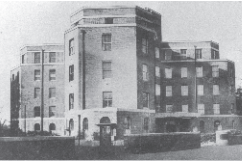
1. 人間中心(Human-Centered)
本学の理念である「至誠と愛」に立ち戻り、患者さんの利益を最優先に考え、安心・安全な医療を提供します。同時に、人材の育成を重視し、やりがいと誇りを持って働くことができる職場風土を醸成します。
2. 高潔(Integrity)
患者さんご家族、職員、そして社会に対して高潔な志を貫きます。過去の過ちを決して忘れず、強いガバナンスと透明性のある運営を実現します。
3. 責任(Responsibility)
職員一人ひとりが考え、行動し、患者さんの生命と健康を守る責任を全うします。また、すべての職員がともに組織の改善に継続的に取り組みます。
4. 共創(Co-Creation)
職種を超えてすべての職員が丸となり、患者さんご家族とともに、最善の医療を実践することを目指します。
5. 革新(Innovation)
新しいアイデアやアプローチに対して開かれた姿勢を持ち続けます。最新の医療技術とケアを追求し、常に医療の質の向上を目指します。

沿革

1900年	明治 33年	12月	東京女医学校創立(5日 創立記念日)
1904年	明治 37年	9月	東京至誠医院開設
1908年	明治 41年	12月	附属病院開設許可
1930年	昭和 5年	12月	附属病院竣工
1936年	昭和 11年	11月	第二病棟竣工
1952年	昭和 27年	4月	新制東京女子医科大学発足
1965年	昭和 40年	4月	附属日本心臓血圧研究所竣工
1967年	昭和 42年	10月	神経精神科病棟竣工
		12月	附属消化器病センター竣工
1971年	昭和 46年	10月	附属脳神経センター竣工
1978年	昭和 53年	3月	中央病棟竣工
1979年	昭和 54年	4月	腎臓病総合医療センター開設
1980年	昭和 55年	7月	東病棟竣工
1984年	昭和 59年	4月	内分泌疾患総合医療センター開設
		9月	母子総合医療センター開設
1987年	昭和 62年	3月	糖尿病センター竣工
1989年	平成 元年	4月	救命救急センター開設
1990年	平成 2年	10月	呼吸器センター開設
2003年	平成 15年	3月	総合外来センター竣工
2009年	平成 21年	12月	第1病棟竣工
2016年	平成 28年	9月	教育・研究棟竣工
2020年	令和 2年	2月	彌生記念教育棟竣工



東京女子医学専門学校正門
1917(大正6)年



東京女医学校附属病院
1930(昭和5)年



吉岡彌生肖像
1941(昭和16)年

〈東京女子医科大学史料室所蔵〉

Contents

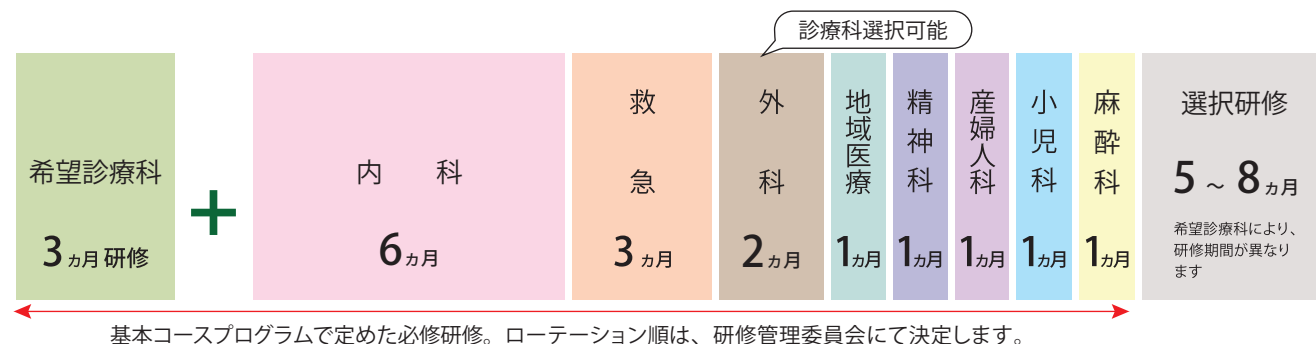
- 1 病院長メッセージ／
卒後臨床研修センター長メッセージ
- 2 ミッション・ビジョン・バリュー／沿革
- 3 研修コース・ローテーション紹介
- 9 選択研修先紹介
- 13 協力型臨床研修病院・
研修協力施設紹介
- 14 施設
- 15 指導体制／後期研修
- 16 研修医からのメッセージ
- 17 各種データ

研修コース・ローテーション紹介

多様なコース制と特色あるローテーションの中で
基本手技を修得し夢を構築する

●基本コース・パターン

1年次に研修したい希望診療科の他に、外科必修の研修診療科を選択することができます。
選択した希望診療科によって、選択研修の期間が異なります。
希望診療科の研修時期を含めローテーション順は、研修管理委員会にて決定します。
当院指定の研修施設にて、必修研修を行うことも可能です。（年間合計10名まで、最長6ヵ月）
2年次に研修する必修研修は当院だけではなく、足立医療センターでの研修となる場合があります。
地域医療研修時に、一般外来研修を並行して行います。



基本コースのローテーション例

希望診療科に「内科系」を選択した場合

1年次	希望内科 3ヵ月	救急 3ヵ月	内科 2ヵ月	外科 2ヵ月	精神科 1ヵ月	産婦人科 1ヵ月
2年次	小児科 1ヵ月	麻酔科 1ヵ月	内科 1ヵ月	地域医療 1ヵ月	選択研修 8ヵ月	

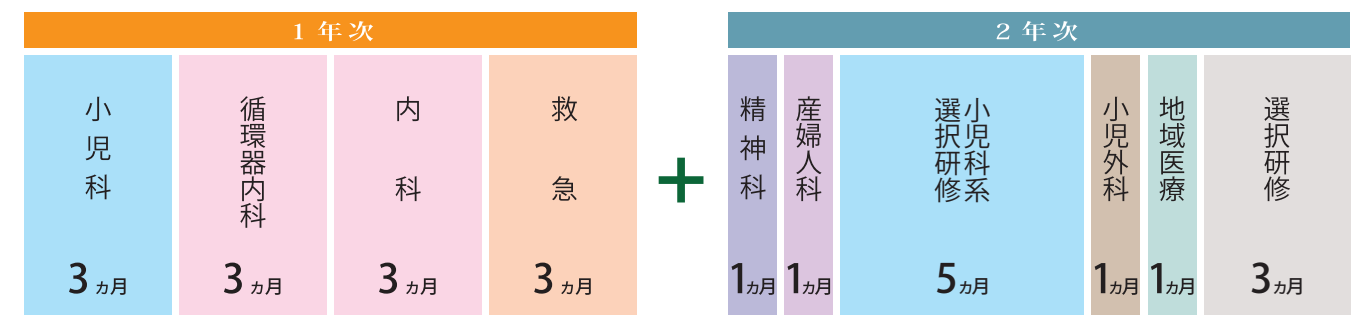
希望診療科に「外科系」を選択した場合

1年次	希望外科 3ヵ月	救急 3ヵ月	内科 2ヵ月	内科 2ヵ月	精神科 1ヵ月	産婦人科 1ヵ月
2年次	小児科 1ヵ月	麻酔科 1ヵ月	内科 2ヵ月	地域医療 1ヵ月	選択研修 7ヵ月	

●小児科専門コース・パターン

小児科医としての知識・技能・診療姿勢の修得を目指して実践的な研修を提供

小児科医療に必要な基本的臨床能力、さらには小児全体を診る「総合診療科医」としての実践力を身に付け、
病児および家族のこころの問題を常に考えた診療を実践できる小児科医の育成を目指します。



〔その他〕循環器内科では、希望者には小児循環器疾患も経験できるよう考慮します。
救急研修の半分は小児急性期疾患の研修を行い、地域医療は地域小児研修を行います。
小児科研修と地域医療研修時に、一般外来研修を並行して行います。
小児科系選択研修では、小児科・腎臓小児科・循環器小児科・NICUの4診療科から自由に組み合わせで選択することができますが、1診療科につき最長3ヵ月までとします。

小児科専門コースについて

●佐藤 友哉 先生

小児科コースでは、一般的な小児科だけではなく、循環器・腎臓・新生児・小児外科といった幅広い分野を研修医のうちから学ぶことができます。そのため、小児科志望の方で特定の分野に興味がある方にも、まだやりたいことが決まっていない人にも、たいへん勉強になると思います。長期間小児科を学ぶことで、小児特有の考え方や、手技についても広く経験することができました。また、小児科の先生方のご指導のもと、学会発表を2回経験することができ、大変勉強になりました。
(プログラム変更に伴い、研修プログラムの内容が変更となっています)



研修コース・ローテーション紹介



●産婦人科専門コース・パターン

産婦人科医を育成する高度なプログラムを実施。心豊かでしなやかな医療人になるために

産婦人科医療に必要な基本的な研修を行うとともに、
将来の周産期医療や骨盤外科などのサブスペシャリティの育成を目標としたプログラムを採用しています。

1 年次					2 年次					
産婦人科	内科	内科	内科	救急	地域医療	精神科	外科	産婦人科	小児科	選択研修
3ヵ月	2ヵ月	2ヵ月	2ヵ月	3ヵ月	1ヵ月	1ヵ月	1ヵ月	3ヵ月	1ヵ月	5ヵ月

[その他] 内科必修研修のうち、1診療科を選択することが可能です。
2年次の外科研修は、消化器・一般外科を研修します。
地域医療研修時に、地域医療研修と一般外来研修を並行して行います。

産婦人科専門コースについて

●鈴木 正人 先生

産婦人科コースを選択し、研修最初の3カ月間を産婦人科で行うことで、研修修了までに必要な知識や課題を早い段階で明確にすることができました。他科研修においても、産婦人科に関連する合併症例に優先的に担当させてもらうことで、常に産婦人科疾患を意識して研修に取り組むことができました。コース独自の必修診療科である新生児科・麻酔科研修は専門的な手技修得だけでなく、多角的な視野を持って治療を選択する医師になるため、非常に有意義な研修でした。産婦人科専門コースのおかげで、高いモチベーションを持って2年間の研修を行えたと考えています。
(プログラム変更に伴い、研修プログラムの内容が変更となっています)



●外科専門コース・パターン

先進的なプログラムを実施し、外科医としての豊富な知識と広い視野を育む

外科専門コースでは、将来、消化器外科医・心臓血管外科医・呼吸器外科医・小児外科医・乳腺外科医・内分泌外科医の何れかの外科医になることを決めている方を対象としています。

1 年次					2 年次					
内科	内科	外科	内科	救急	精神科	産婦人科	小児科	地域医療	麻酔科	選択研修
2ヵ月	2ヵ月	3ヵ月	2ヵ月	3ヵ月	1ヵ月	1ヵ月	1ヵ月	1ヵ月	1ヵ月	7ヵ月

[その他] 消化器・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、内分泌外科への入局を考えている方向けのコースです。
地域医療研修時に、地域医療研修と一般外来研修を並行して行います。
外科系選択研修では、足立医療センター・八千代医療センター・埼玉県済生会加須病院・牛久愛和総合病院・多摩北部医療センター・中央林間病院・埼玉石心会病院など、他施設の外科領域から選択することも可能です。

外科専門コースについて

●近藤 弘晃 先生

外科専門コースは、研修開始時より希望する外科系診療科で集中的に3カ月学ぶことができ、非常に濃密な時間を過ごすことができるのが特色です。さらに、将来希望する外科系に必要な知識や、周術期管理に大切な知識を内科・麻酔科・救命救急センターの研修で得ることができます。また、地域医療研修期間を他の協力施設での外科研修に変更することも可能です。Common diseaseを多く診察する機会が得られるだけでなく、外科専門医に必要な症例数の積み重ねを初期研修期間から始められます。症例数も豊富で、指導体制も充実した当院での外科専門コース研修は、非常に有意義な時間でした。
(プログラム変更に伴い、研修プログラムの内容が変更となっています)

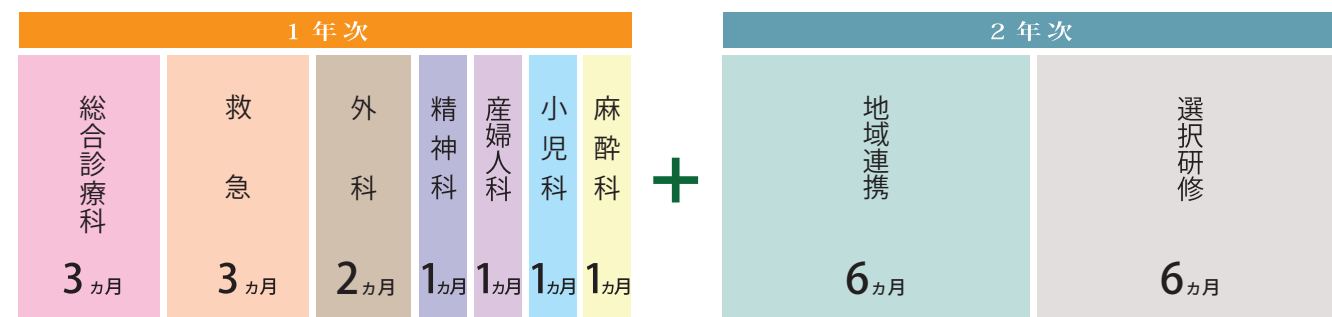


研修コース・ローテーション紹介

● 地域によるプライマリ・ケア連携コース・パターン

将来、地域における最強の臨床医になりたい研修医向けのプログラム

プライマリ・ケア教育・指導において評価が高い地方の研修施設を取り揃え、大学も含めた様々な立地、規模の医療施設で研修することによって、いかなる医療施設でも対応できる臨床能力が身に付きます。



[その他] 1年次の外科研修は、消化器・一般外科を研修します。
2年次の地域連携研修は、1年次で実施する場合もあります。
地域連携研修期間に内科研修を3ヵ月、地域医療研修1ヵ月を並行して行います。

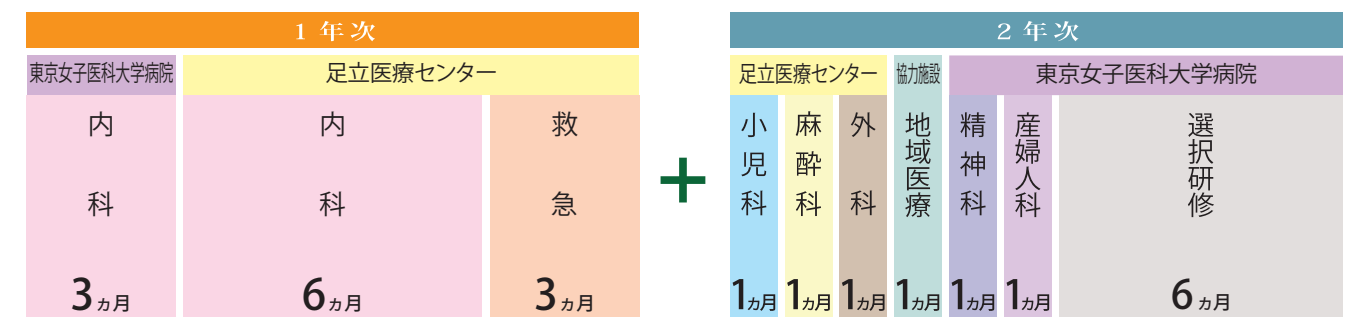
地域連携期間の研修協力施設

	病 院 名	住所・HP
1	広域紋別病院	〒094-8709 北海道紋別市落石町1-3-37 https://www.mombetsu-hospital.jp/
2	白十字総合病院	〒314-0134 茨城県神栖市賀2148 https://www.hakujuji.jp/
3	志摩市民病院	〒517-0603 三重県志摩市大王町波切1941-1 https://shimacityhospital.jp/
4	屋久島徳洲会病院	〒891-4205 鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦2467 https://www.yakushimatokushukai.com/
5	喜界徳洲会病院	〒891-6201 鹿児島県大島郡喜界町赤連105-5 https://kikai-tokushukai.com/

● 足立医療センター連携コース・パターン

地域中核病院と大学病院で学ぶ研修プログラム

足立医療センターは地域支援病院として機能しているため、研修期間の半分(1年間)を足立医療センターで過ごすことにより、common diseaseから高度な専門知識を必要とするrare diseaseまで、幅広い疾患を経験する機会を増やすことができます。



[その他] 1年次の7月～2年次の6月までの間、足立医療センターで研修を行います。
選択研修期間は、東京女子医科大学病院で研修を行います。
地域医療研修時に、地域医療研修と一般外来研修を並行して行います。

足立医療センター

足立医療センターは移転により、令和4年元旦から現在の足立区で診療を開始しました。病床数は450床、東京都区東北部(足立区・荒川区・葛飾区)の中核病院で、日常疾患から希少疾患／慢性疾患から重症急性疾患等、幅広い疾患の経験を積むことが可能です。内科、外科は専門領域を細分化しない総合医局で診療科間の垣根が低く、複数の疾患を抱える患者さんの診療に適した研修を行うことができます。また、屋上にヘリポートを有し、救命救急センターで受け入れる救急搬送は年間約1,100件と都内でもトップクラスです。



選択研修先紹介

個々のキャリアパスを見据え
更に高度な専門領域を探っていく――



プログラムの概要

当院は、40におよぶ多彩な診療科で専門診療チームが外来や病棟診療を担当しています。「選択研修」においても、実践的な研修プログラムが整備されており、人間性豊かで優秀な医療人を育成するために尽力しています。「研修の充実」や「将来の専門領域への第一歩」のために、各診療科の特長をご紹介します。



呼吸器内科

Respiratory Medicine

聴診や身体所見の取り方を身につけ、X線・CT写真の読影や、超音波気管支内視鏡なども経験できます。肺癌の遺伝子変異に対する治療や、喘息には生物学的製剤など最新の治療を経験し、呼吸器、アレルギー、肺癌など各分野を当科で修得できます。

高血圧・内分泌内科

Endocrinology and Hypertension

内分泌センターの伝統を守る教室。研究活動も活発で、世界を先導する「攻めの医療」を展開しています。研修では、内分泌系を通して全身を診療できる医師の育成を目指してきました。経験豊富な内分泌や糖尿病、甲状腺の専門医・指導医が多く在籍し、研修医教育にあたります。

膠原病リウマチ内科

Rheumatology

日本最大規模を誇るリウマチ性疾患・膠原病センターの、内科病棟部門での初期研修です。難病・希少疾患はもとより、コモンな合併症（肺炎や腎盂腎炎、骨粗鬆症など）まで対象としています。アカデミックな環境と一般内科的教育を高い次元で両立させています。

呼吸器外科

Thoracic Surgery

肺癌は癌死亡原因のトップで、注目度・専門性ともに非常に高い外科です。肺はバイタルオーガンであるため、医療全般から専門領域まで幅広い修練を実践し、胸腔鏡手術を習得できます。3Dシミュレーションやロボット手術など、最新の医療技術も経験可能です。

小児外科

Pediatric Surgery

当科は都内でも有数の日本小児外科学会認定施設に認定されており、小児領域関連各科の中で高度なチーム医療を実践しています。腹腔鏡、胸腔鏡を用いた小児内視鏡外科手術が大きな特徴となっており、最新の小児内視鏡外科手術を研修することができます。

血液内科

Hematology

良性的貧血から白血病・悪性リンパ腫など幅広い疾患を扱い、造血幹細胞移植やCAR-T細胞療法など最新の治療を行っています。化学療法、感染症の基本知識を学習することにより、免疫不全患者の全身管理に習熟できます。また基本手技（中心静脈カテーテル挿入、腰椎穿刺など）も多数経験できます。

腎臓内科

Nephrology

糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、ANCA関連血管炎、慢性腎不全や透析導入などの豊富な症例を経験することで、腎疾患の病態や腎臓生理の理解を深めます。また、シャント作成や血管内カテーテル治療など、積極的に手技を学びたい方も充実した研修ができます。

循環器内科

Cardiology

わが国における循環器臨床のパイオニアとして先導的役割を果たしています。急性期から慢性期の循環・全身管理、超音波・カテーテル検査、治療などの手技を充実した指導スタッフや本邦最大規模の症例数を背景に、基本から最新の知識・技能を習得するための研修を行います。

内分泌内科

Endocrinology

内分泌内科では、種々の内分泌疾患ガイドライン作成に関わってきた経験豊富な指導医と共に、多様な内分泌疾患患者さんと真摯に向き合い、個々の患者さんにとってのより良い医療が何かを考え、それを実行できるようにするphysicianを育成する研修を行います。

形成外科

Plastic Surgery

外傷、腫瘍、先天異常などによる体表面の障害に対して、外科的手技を用いて治療を行っています。日常診療で遭遇する一般的な創傷から専門性の高い疾患まで、幅広い診療の経験が可能です。創傷治癒過程に関する基本的な知識の修得は、外科系を目指す研修医には有効です。

内分泌外科

Endocrine Surgery

甲状腺、副甲状腺、副腎、膵内分泌腺など、外科的内分泌疾患を総合的に診療する世界的にもユニークな存在で、当院を特色づける診療科の一つです。外科の基本的な手技の習得のほか、めずらしい内分泌疾患を経験することも可能です。

消化器内科

Gastroenterology

腹痛や嘔気を主訴とする患者さんは日常診療で最も多く遭遇し、増加する悪性腫瘍の多くは消化器癌です。いかなる分野を志す臨床医も、消化器内科は経験・修得すべき診療科です。患者さんに信頼され、チーム医療の中心となり責任感と協調性のある医師の育成を目指しております。

脳神経内科

Neurology

急性疾患から慢性疾患まで脳神経内科全領域にわたる豊富な症例を経験できます。研修の目標は神経学的所見を取れるようになること、髄液検査やCT・MRI検査の読影をマスターすることであり、救急で必ず遭遇する神経疾患にしっかり対応できるよう指導します。

糖尿病・代謝内科

Diabetology and Metabolism

糖尿病患者さんのトータルケアを目指して設立された、世界で最大規模の糖尿病専門診療施設です。全身に高度の合併症を有する症例が多いため、選択研修では内科全領域にわたる疾患を充実した指導体制のもとに学ぶことができます。

総合診療科

Department of General Medicine

研修の場は外来と病棟であり、患者の初診から入院、退院までを担当できる貴重な機会となります。外来では診断力や患者中心力を鍛え、また病棟ではすべての医師が身に付けるべき、総合内科的ケアをまんべんなく実践できるように研修します。いかなる状況にも対応できる総合診療を指導します。

整形外科

Orthopedic Surgery

整形外科の専門は膝、股、脊椎、肩、手、足、リウマチなど多岐にわたりますが、手術をすることで患者さんのADLやQOLを劇的に改善できるのが魅力のひとつです。また、初期研修では外科系直当には必須である骨折などの外傷を経験することができます。

乳腺外科

Breast Surgery

乳癌は部位別罹患数で日本人女性の一位であり、9人に1人が生涯で罹患すると言われています。乳腺外科では、手術はもちろんのこと、診断から薬物療法、終末期医療まで、幅広い診療を行なっています。チームの一員として研修医の先生方が活躍できる診療科です。

選択研修先紹介



心臓血管外科

Cardiovascular Surgery

新生児から高齢者まで治療対象として
います。大学病院の特性を生かし、人
工心臓、心臓移植、カテーテル治療な
ど先端医療を実施するとともに、臨床
研究、学会発表も活発です。的確な治
療により、患者さんの劇的な回復を実
感できる魅力的な診療科です。

消化器・一般外科

Gastroenterology

臓器別グループによる診療がなされ、症
例数、切除成績とも日本のトップレベル
にあります。外科基本手技は上級医の指
導のもとに研修医自ら実践でき、鏡視下
手術やロボット手術などの低侵襲手術
や、内視鏡検査・治療、画像診断など
幅広く研修できる診療科です。

脳神経外科

Neurosurgery

脳神経外科は様々な疾患に対応してお
ります。血管障害、悪性腫瘍、良性腫
瘍、機能的疾患、小児、下垂体、脊椎、
ガンマナイフの各班が最新の医療を行
っています。短期間の研修だからこ
そ、豊富な症例に基づいた密度の
濃い研修を受けてください。

泌尿器科

Urology

泌尿器科は、内科的側面から外科的
側面まで幅広い疾患が対象です。
手術についても悪性腫瘍手術、移植
手術、形成手術と多彩です。最近
はda Vinciを用いたロボット支援手術が
標準的手術となりつつあります。短期
間の研修中に様々な泌尿器科の知識の
修練と技術の修得を目標とします。

眼科

Ophthalmology

外界からの情報の8割は視覚から得
られ、眼球は小さいが精巧な器官
で、小宇宙と言えます。眼科は、こ
の眼球の病変を直接観察でき、診断
から治療、治療後の経過まで見るこ
とができ、内科、外科的な両面があり
ます。動物眼による手術練習も積
極的に行っています。

耳鼻咽喉科

Otorhinolaryngology

めまい、呼吸困難、鼻出血、中耳炎な
どの救急疾患からプライマリケアに必
要な知識や技術の修得を目指します。
また唾液腺疾患や鼻副鼻腔疾患の内視
鏡下手術、中耳疾患の内視鏡下及び顕
微鏡下手術から頭頸部手術に至るまで
多くの治療法を経験できます。

救命救急センター

Critical Care and Emergency Medicine

重症救急患者への初療の実践、複数科に
およぶ急性期疾患、重傷外傷への適切
な対応と重症症例の全身管理の理解、終
末期の医療倫理の学びを目的としています。
将来、緊急を要する症例や重症症例に直
面した時に、対応できる医師の育成を目
指します。



集中治療科

Department of Intensive Care Medicine

集中治療の使命は、重篤な急性臓器不全
に対して強力かつ集中的な治療とケアを
行い、臓器機能を回復させ重症患者を救
うことです。集中治療科では重症患者の
全身管理に必要な基本的な知識（鎮痛鎮
静、循環管理、呼吸管理、ECMO）につ
いて学ぶことができます。

放射線腫瘍科

Department of Radiation Oncology

どの診療科を目指すにしても、現在で
はがん治療の総合的な研修は欠かせま
せん。放射線腫瘍科では、全身のさま
ざまながんを扱うため、短期間で多岐
にわたる治療経験を積むことが可能で
す。最新の医療技術を駆使して、がん
と闘う患者に希望を提供しています。

画像診断・核医学科

Department of Diagnostic Imaging and
Nuclear Medicine

日常臨床では欠かせない画像診断の基
礎と適応判断、読影から、数年単位で
の技術進歩に対応した最新まで幅広く
学べる環境が揃っています。加えて当
院の豊富な症例の蓄積があり、典型症
例から珍しいケースまで網羅した教
育・研修システムが整っています。

皮膚科

Dermatology

1日約100人の外来患者が訪れ、診療
能力向上に欠かせない患者絶対数
と、研究研修の対象になる多彩な疾
患との遭遇に恵まれています。高い
診断力を持ち、患者さんの種々の要
求に対応できる「良医」の育成を目
指しています。

神経精神科

Psychiatry

1948年に開設され、地域の精神医療に貢
献してきた歴史をもっています。精神保健
福祉法に基づく専門病棟・精神科外来・精神
科リエゾン診療と、幅広い臨床を実践して
います。特に身体疾患合併症例への対応を
はじめ、精神科リエゾンチーム、認知症ケ
アチームなど、総合病院における精神医療
の役割を積極的に果たしています。

小児科

Pediatrics

小児総合医療の中核として、伝統の
神経筋疾患診療の充実に加え、アレ
ルギー、免疫・膠原病、内分泌代
謝、消化器、小児救急などの専門分
野を確立すると共に、幅広く対応で
きる一般小児科医（ジェネラリスト）
育成に力を入れています。

腎臓小児科

Pediatric Nephrology

日本の大学病院では、唯一独立した診
療科として小児腎臓病専門を標榜して
います。あらゆる小児腎臓病疾患に
対して、より良い治療を提供するべ
く、一致団結する心優しい小児科医が
揃い、小児腎臓病診療に関する知識を
高めるには適した研修の場です。

血液浄化療法科

Blood Purification

腎臓・血液浄化療法という専門領域に
おける総合的医療として、年間600人
以上の入院患者、約60名の外来維持透
析患者の診療や、知識・技能の修得が
可能です。慢性腎不全の治療や透析導
入はもとより、腎疾患以外の血漿交
換、吸着療法などが必要な疾患にお
いても症例が豊富で、充実した研修を送
ることができます。

麻酔科

Anesthesiology

呼吸・循環などの全身管理、疼痛管
理（ペインクリニック）、緩和医療
などの幅広い研修が可能です。麻酔
管理では、マスク換気や気管挿管な
どの基本的な気道確保の手技や昇圧
薬などの循環系作動薬の使い方を身
に付けることができます。

腫瘍内科(化学療法・緩和ケア科)

Department of Medical Oncology

腫瘍内科学に基づき臓器横断的にがん
の治療を行う診療科です。初期研修期
間に先進医療を行いながら、がん診療
の基礎を身につける機会は、今後の
キャリアに大きな財産となります。

循環器小児・成人先天性心疾患科

Pediatric and Adult Congenital Cardiology

日本で最も歴史のある循環器専門の小
児科です。胎児から新生児、小児、成
人に至るまでの幅広い年齢層の先天
性心疾患診療を行っています。循環器疾
患、一般小児科のみならずいろいろな
疾患の知識の習得が可能で、学会発表
も積極的に指導しています。

産婦人科

Obstetrics and Gynecology

当科は、婦人科悪性腫瘍を扱う腫瘍
学と分娩を扱う周産期学、不妊治療
を扱う生殖医学、更年期障害や良性
婦人科疾患を扱う女性医学の4領域
に分かれています。腫瘍や婦人科救
急などの女性のトータルヘルスケ
ア、高度な周産期医学の知識や技
能を高める研修を行います。

母子総合医療センター

Maternal and Perinatal Center

当センターは我が国の周産期センター
のパイオニアです。胎児診断、早産、
先天異常、心疾患、小児外科疾患など
様々な新生児疾患の診療を通じ、蘇生
から急性期集中管理、さらに家族支援
を含めた全人的医療を担える医師の育
成を目指しています。

病理診断科

Department of Surgical Pathology

病理診断は疾患の最終診断で、ここから
治療が始まります。病理診断科では、
年間、組織診（生検・手術例）10,000件、
細胞診7,000例を担当し、病理解剖にも
参画しています。また、2019年度から
本格的に始まったゲノム診療にも貢献し
ています。研修期間中には、基礎知識や
免疫組織化学などの技術の習得に加え、
学会参加や論文発表も支援します。

リハビリテーション科

Rehabilitation Medicine

ほぼ全ての診療科から依頼があり、
急性期のリハビリのほか、小児・運
動器・呼吸循環などの外来リハビリ
も行っています。チーム医療の体制
で各専門治療を施行しており、リハ
ビリの意義、処方・技術、流れや、
全人的な視点での医療について学習
できます。

感染症科

Infectious Diseases

臨床感染症学の基礎知識は、どの診療科
においても必要な知識です。当科では、
各科より血流感染症、術後創部感染など
数多くの感染症に関するコンサルテーシ
ョンや感染対策についての相談があり、
「理論」と「実践」を直結できる教育を
実践しています。内科やプライマリケア
の知識の再確認や、EBMへの理解を深め
るには適した診療科です。

Affiliated Hospitals and Institutions for Training

協力型臨床研修病院・研修協力施設紹介

広い視野で臨床能力を伸ばしていく——
多彩で充実の研修協力施設

協力型臨床研修病院

	病 院 名	住 所 ・ HP	研 修 分 野
1	東京女子医科大学附属足立医療センター	〒123-8558 東京都足立区江北4-33-1 https://twmu-amc.jp/index.html	内科／外科／救急部門／ 産婦人科／小児科／麻酔科
2	東京女子医科大学附属八千代医療センター	〒276-8524 千葉県八千代市大和田新田477-96 https://www.twmu.ac.jp/TYMC/	内科／外科／産婦人科／ 小児科
3	埼玉県済生会加須病院	〒347-0101 埼玉県加須市上高柳1680 https://www.saikazo.org/	内科／外科／小児科
4	牛久愛和総合病院	〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896 https://www.jojinkai.com/ushiku/	内科／外科
5	東京都立多摩北部医療センター	〒189-8511 東京都東村山市青葉町1-7-1 https://www.tmhp.jp/tamahoku/	外科
6	埼玉石心会病院	〒350-1305 埼玉県狭山市入間川2-37-20 https://saitama-sekishinkai.jp/	外科

研修協力施設

	施 設 名	住 所	研 修 分 野
7	湘南第一病院	〒252-0804 神奈川県藤沢市湘南台1-19-7	地域医療
8	中央林間病院	〒242-0007 神奈川県大和市中央林間4-14-18	
9	日扇会第一病院	〒152-0031 東京都目黒区中根2-10-20	
10	西新井病院	〒123-0845 東京都足立区西新井本町1-12-12	
11	圏央所沢病院	〒359-1106 埼玉県所沢市東狭山ヶ丘4-2692-1	
12	ゆみのハートクリニック	〒171-0033 東京都豊島区高田3-14-29 KDX高田馬場ビル1階	
13	椿診療所	〒111-0021 東京都台東区日本堤1-6-11	
14	河北ファミリークリニック南阿佐谷	〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-16-8	
15	ドクターゴン鎌倉診療所	〒248-0027 神奈川県鎌倉市笛田4-25-2	
16	土屋小児病院	〒346-0003 埼玉県久喜市久喜中央3-1-10	
17	まこと小児神経クリニック	〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-7-1 SIT西新宿ビル1階	
18	晴和病院	〒162-0851 東京都新宿区弁天町91	精神科

Facilities

施 設

充実した医療環境と先端設備



1. 第1病棟、2. 中央病棟／そのほか、西病棟 A、西病棟 B、糖尿病センター、東病棟と6つの病棟を完備しています。
3. 総合外来センター／平成15年に竣工。外来業務のほか、医療サービス相談室やからだ情報館など相談施設を設置。



都会にある充実の臨床研修環境

利便性の高い都会の中心にあって、教育環境が整う院内施設群が、
熱く燃える2年間の研修生活を支えます。

[院内施設]

● 卒後臨床研修センター

H26年5月より第1病棟の3Fに移転し、専用の勉強スペースと、以前は別の階に位置していた当直室を研修センター内に設置することができ、より利用しやすい環境へと変わりました。勉強スペースには、パソコンを配置し、図書館ネットワークにも接続している為、インターネットなども用いて、24時間論文や文献の検索が可能です。休憩室は、日当たりが良く、簡単なキッチンスペースもあり、テーブルを囲んで学年の垣根なく食事したり談笑したりと、くつろぐことができます。



● 図書館

図書貸出のほか、ネットワーク環境での利用もでき、研修に必要な図書・雑誌情報を24時間活用することができます。



● スキルスラボ

診察、心音・呼吸音の聴診、超音波診断検査、外科手技等に関する医療機器や様々なシミュレータを備えており、診察技術・基本的な臨床技能の修練を行うことができます。また、不定期ですが、職員のBLS講習やICLS講習会、JMECC講習会なども実施しています。



[研修医寮]

病院より徒歩15分圏内で、広さ17㎡～22㎡程、バス・トイレ別を条件に一般の賃貸物件を大学で契約し、希望者に寮として提供します。そのため、寮の場所は固定では無く、事前の見学などはできません。寮費51,000円／月（共益費、家財保険料込み）、ガス・水道・光熱費などは、個々に契約していただきます。部屋により、多少レイアウトが異なりますが、希望者全員が入居できるように手配しておりますので、近隣にお住まいでない方も、安心して研修にお越しください。



敷地内には、西病棟、第1病棟、総合外来センターそれぞれに売店があり、クリーニング店や銀行のATMもあります。

● TULLY'S COFFEE



● NATURAL LAWSON



指導体制



指導医リーダー・副リーダー

診 療科には指導医リーダー、副リーダーがいます。定期開催のリーダー会に参加して研修内容についての確認を行い、指導医と研修医の橋渡しをするのが役目です。研修医アドバイザーとも連絡を取り合い、研修体制のサポートを行っています。研修医は、診療科について知りたいこと、相談したいことなど、指導医リーダーに随時連絡をとることができます。



指導医講習会

厚 生労働省認定の指導医講習会を年1回開催し、指導医の養成に努めています。2日間の講習を終えた指導医は一回り大きくなり、「明日から研修医とともに頑張ろう」と、研修医の元に戻っていきます。また、日常の勤務では接することの少ない指導医同士がディスカッションを通じて、横のつながりを深めています。

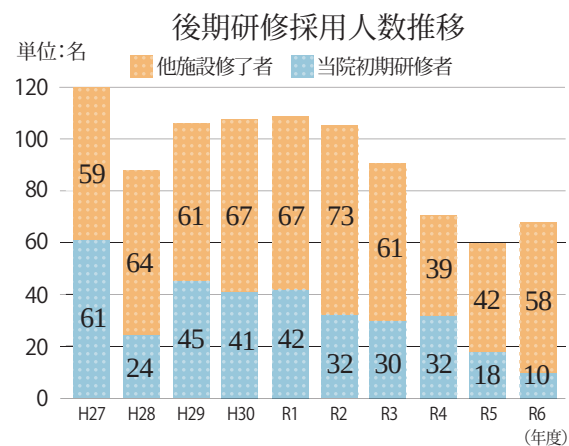
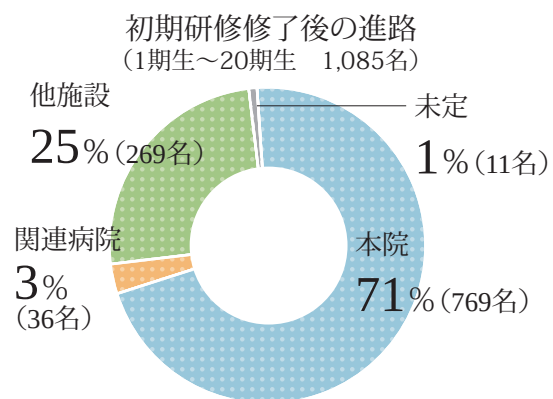


研修医アドバイザー

ア ドバイザーは、年次ごとに作業部会委員より2名が選出され、皆さんの研修開始から修了までをサポートします。研修中の悩みや健康上の問題など、生じた問題には速やかに対応し、進路相談、研修遅れのサポートなどを行うとともに、研修先の指導医と密に連絡を取り合っています。困った際には、いつでもアドバイザーに声をかけてください。

後期研修

初期臨床研修修了後は、19基本診療領域のいずれかの専門医資格を取得することが求められます。専門医資格の取得には、原則として初期臨床研修修了後3年以上の専門研修が必要となります。診療領域によっては初期臨床研修期間中に経験した症例の一部を使い申請することも可能です。当院は、全ての基本診療領域の基幹施設であり、また、専門医資格取得後は、さらに専門分化した診療領域の専門医資格取得を目指すサブスペシャリティ領域も充実しています。その為、初期臨床研修から引き続き、専門医取得に向けて後期臨床研修を行う道が開かれており、個々の目的や目標に合わせた幅広い選択肢が用意されています。



研修医からのメッセージ



他大学出身

Message 02

志望理由について

“将来につながる豊富な人間関係を医師として大切にしたい”

● 杉本 圭先生

私が、女子医大を研修先として選んだ1番の理由は、全国各地から多くの先生が集まってくるといことです。女子医大で研修を行うことで、自然と様々な所で学んだ先生方の教えることができ、医師として視野を広げるにはとても素晴らしい環境です。また、同期が多いということも魅力の1つでした。これから医師として働いていく上で、頼りになる同期が多いことは、自分にとって大きな財産になると思います。女子医大での研修の魅力はここだけでは十分に語り尽くせません。私は、女子医大を研修先を選んで本当に良かったと思っています。是非女子医大で一緒に働きましょう！

女子医大卒業生



Message 01

志望理由について

“多くの女性医師の活躍が決め手に。出身大学の垣根を越えて人を大事にします”

● 真壁 志帆先生

せっかくなら出身大学以外の病院に身を置いてみたいと思い、マッチング前はたくさんの病院を見学しました。その中で女子医大は、カンファレンスや勉強会が充実している、各分野のスペシャリストの先生が揃っていて将来の可能性が広がる、という印象でした。そして、多くの女性医師が、ごく自然にかつ華やかに活躍していることに魅せられ、研修先として希望しました。同期の半数は女性で女子医大卒業生が多いですが、男性の出身大学は様々ですし、研修医間はとてもフレンドリーで皆楽しく支え合う雰囲気です。他大学出身の女子学生の方も是非躊躇わず研修しに来てください。



他大学出身

Message 03

志望理由について

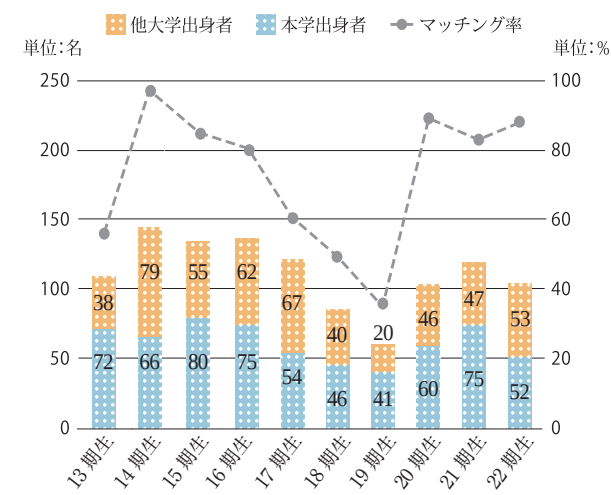
“女性医師や専門性の高い指導医など、多様なロールモデルが選択したポイント”

● 佐々木 理多 先生

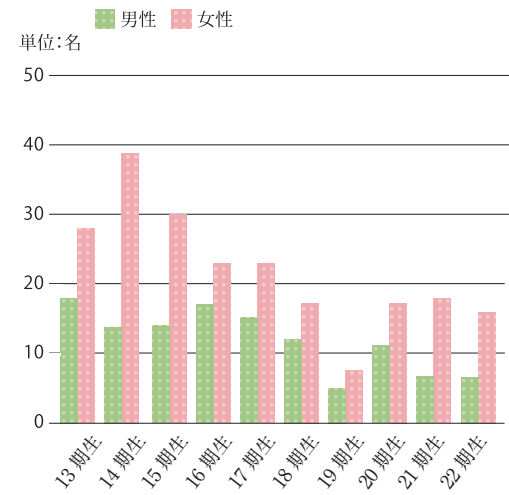
私は研修先を考えた時、以下の理由から、迷うことなく女子医大で行おうと思いました。まず、診療科が多彩であり、一般的な疾患から比較的に稀な疾患まで、様々な症例を学べることです。さらに、どの診療科にもその科のエキスパートの先生がいて、熱心にご指導いただくことができます。また、ロールモデルとなる女性医師は、女性の研修医にとって大変心強い存在です。家庭との両立を前提に将来進みたい道を考えるとき、内科・外科問わず参考となる先輩方がたくさんいらっしゃいます。現在は、楽しく充実した研修生活を送っており、研修病院を選んで良かったと思っています。

各種データ

応募状況・マッチング率の推移 <13期生～22期生>



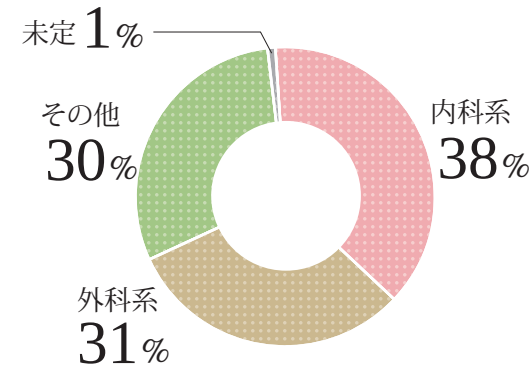
採用状況の推移 <13期生～22期生>



出身大学別人数 <1期生～22期生>

北海道大学 1名	東京医科大学 32名	藤田医科大学 8名	福岡大学 9名
札幌医科大学 1名	東京慈恵会医科大学 6名	大阪医科薬科大学 4名	大分大学 4名
旭川医科大学 2名	東邦大学 21名	関西医科大学 6名	九州大学 1名
弘前大学 4名	日本大学 17名	近畿大学 4名	久留米大学 8名
岩手医科大学 21名	日本医科大学 14名	神戸大学 1名	長崎大学 2名
東北大学 2名	横浜市立大学 2名	兵庫医科大学 4名	熊本大学 2名
秋田大学 3名	聖マリアンナ医科大学 24名	京都大学 1名	宮崎大学 1名
山形大学 5名	北里大学 14名	奈良県立医科大学 4名	鹿児島大学 4名
福島県立医科大学 3名	東海大学 19名	滋賀医科大学 1名	琉球大学 4名
筑波大学 7名	新潟大学 2名	和歌山県立医科大学 4名	東国大学校 2名
獨協医科大学 23名	富山大学 5名	岡山大学 1名	延世大学校 1名
群馬大学 16名	金沢大学 5名	鳥取大学 3名	大邱カトリック大学校 1名
埼玉医科大学 27名	金沢医科大学 24名	島根大学 3名	忠北大学校 1名
千葉大学 4名	福井大学 4名	川崎医科大学 19名	中国医科大学 4名
東京大学 5名	山梨大学 18名	広島大学 6名	北京大学 3名
慶應義塾大学 2名	浜松医科大学 1名	山口大学 6名	復旦大学 2名
杏林大学 21名	信州大学 4名	香川大学 3名	ハンガリー国立ペーチ大学 1名
順天堂大学 1名	岐阜大学 2名	愛媛大学 6名	
昭和大学 8名	愛知医科大学 11名	高知大学 2名	
帝京大学 23名	三重大学 2名	佐賀大学 4名	

修了時の進路 <1期生～20期生>



研修医募集スケジュール

- 6月28日(土) ● 採用説明会
- 7月12日(土) ● Web採用説明会
- 7月29日(火)、8月12日(火) ● 募集締切
- 8月9日(土)、8月23日(土) ● 採用試験(筆記・面接)
- 8月27日(水) ● 管理委員会にてマッチング登録順位決定
- 10月9日(木) ● マッチング順位登録締切
- 10月23日(木) ● マッチング決定
- 11月初旬 ● 仮採用手続書類発送

研修医の処遇

1 勤務体制と勤務時間・休暇

常勤とし、原則1週39時間とします。休暇については学校法人の決定内容に準じます。
医師という職業の特殊性から柔軟性が必要で、詳細は各診療科が定める診療業務に準じていきます。

2 給与関係

給与：1年次 256,000円／月、2年次 266,000円／月(税込)
※当直2回、日直1回、時間外手当24時間相当分、住宅手当を含む。
住宅手当：単身者10,000円／月
当直手当：当直5,000円／回、日直4,000円／回
救急外来夜勤手当：5,000円／回
時間外手当：24時間を超過した場合、支給あり
通勤手当：片道1km以上の場合に原則、1ヵ月定期代を支給(上限55,000円)※状況により変動します。

3 保険関係

- (1)健康保険は東京女子医科大学健康保険組合に加入。
- (2)年金保険は厚生年金に加入。
- (3)雇用保険、労災保険に加入。
- (4)医師賠償責任保険：施設限定医師賠償責任保険の適応。(任意保険への加入を勧めます)

4 研修医寮について

家賃51,000円／月(共益費、家財保険料込み)
ガス・水道・光熱費・駐輪場・駐車場などは個々に契約。
病院より徒歩15分圏内、広さ17㎡～22㎡程、バス・トイレ別を条件に、一般の賃貸物件を大学で契約し、希望者全員に寮として提供します。
寮に入居する場合は、住宅手当と交通費は支給対象外です。

5 その他

医師法第16条の3(研修専念義務)により、業務内容・報酬の有無を問わずアルバイトは禁止。

研修医募集要項

1 募集定員

- 東京女子医科大学病院卒後臨床研修プログラムA(基本コース)募集12名
 - 東京女子医科大学病院卒後臨床研修プログラムB(小児科専門コース)募集2名
 - 東京女子医科大学病院卒後臨床研修プログラムC(産婦人科専門コース)募集2名
 - 東京女子医科大学病院卒後臨床研修プログラムD(外科専門コース)募集4名
 - 東京女子医科大学病院卒後臨床研修プログラムE(地域医療連携コース)募集2名
 - 東京女子医科大学病院卒後臨床研修プログラムF(足立医療センター連携コース)募集2名
- ※当院は医師臨床研修マッチング協会が行う、マッチング方式に参加します。

2 応募資格

原則として第120回医師国家試験合格見込み者で、医師臨床研修マッチング協会が行うマッチングに参加登録する者としてします。

3 応募締め切り日

2025年8月9日(土)受験⇒2025年7月29日(火)応募締切
2025年8月23日(土)受験⇒2025年8月12日(火)応募締切

4 選考方法

2025年8月9日(土)および8月23日(土)の希望する試験日に、筆記および面接による試験を行います。
卒後臨床研修管理委員会での合議を経て、病院長が可否の判定を行い、マッチングに登録します。

5 申し込み・連絡先

ホームページに、募集要項と各コース最新の研修プログラムを掲載しております。
なお、募集要項はPC作成用のデータファイルを掲載しておりますので、ダウンロードしてご利用ください。
(書式は毎年変更となりますので、最新のデータで出願願います)
〒162-8666 東京都新宿区河田町8番1号(第1病棟3階)
東京女子医科大学病院 卒後臨床研修センター
Tel.03-3353-8112(内線20331,20332) Fax.03-5269-7825 e-mail:sotsuken.bm@twmu.ac.jp
<https://www.twmu.ac.jp/info-twmu/medical-t/>

